

京都駅南側でみつかった大型建物

(公財)京都市埋蔵文化財研究所 鈴木康高

1. はじめに

本発表の内容は、ホテル新築工事計画に伴う埋蔵文化財発掘調査です。調査地は京都駅の南側に位置します。平安京の条坊では北側を八条大路、南を針小路、東を室町小路、西を町尻小路に囲まれた平安京左京九条三坊八町にあたり、その南東部に調査区を設定しました。調査区の一部は針小路にもまたがっています。調査区は調査地内に 2 箇所設定し、北西側を 1 区、南東側を 2 区としました。

2. 主な遺構

平安時代の流路や平坦面・素掘り溝群、鎌倉時代の礎石建物や掘立柱建物・地業・柵・井戸・道路、鎌倉時代後半以降の素掘り溝群を検出しました。

平安時代 流路 848 は北西から南東方向に流下します。新旧 2 時期に分けることができ、新しいものを 848a、古いものを 848b としました。848a の幅は、3.0 ～ 3.7 m、深さ 0.3 ～ 0.5 m、848b の幅は、5.1 ～ 7.5 m、深さ 0.4 ～ 0.5 m です。平安時代中期には埋没します。

平坦面や素掘り溝群は流路と平行ないし直交するように検出しました。平坦面はひな壇状を呈し、畔状の高まりを一部で検出しました。どちらの遺構も耕作に伴うものと考えられます。

鎌倉時代 鎌倉時代の遺構の変遷は 4 時期に分けることができます。1 期が 12 世紀末、2 ～ 3 期が 13 世紀前半、4 期が 13 世紀後半以降と考えられます。2 期と 3 期は遺構の重複関係などから分けることができますが、遺物からは明確な時期差はみられず近い時期と考えられます。

1 期 宅地としての利用がみられるようになる時期です。井戸や土坑を検出しましたが、これに伴う建物を確認することはできませんでした。井戸 700 は今回の調査では最も大きく直径が 3 m 近くあります。井戸 801 は円形縦板組で、井戸枠内を人頭大の礫を充填し人為的に埋め戻しています。地業 782 とは重複関係にあり、地業 782 ないしは礎石建物構築直前まで機能していたものと考えられます。

2 期 大型の建物や柵・道路などの整備が進み、本格的な開発が行われる時期です。それぞれの遺構について詳しくみていきます。

礎石建物は 2 区の中央部で検出しました。その大きさは、南北 5 間 (11.0 m)、東西 5 間 (12.4 m) です。柱間は南北が 1.8 ～ 2.4 m、東西が 2.4 ～ 2.7 m。礎石自体は検出できませんでしたが、掘形内部に拳大の礫を充填する壺地業としていることから、礎石据付穴と判断しました。建物と重複して地業 782 を検出しました。掘形の側面を木の板と杭で護岸状に補強し、その内部を礫と砂で充填していますが締まりはありませんでした。この上に構造物が建つことを想定することは難しいと考えられることから、湿気抜きの機能を想定しています。

道路 640 は、2 区南端部で東西方向に延びる道路構築土と北側溝を検出しました。針小路にあたりますが、北側溝は平安時代の条坊施行推定ラインより 4 m 南側に位置しています。その構造も特徴的で、復元できる構築過程は以下の通りです。①鎌倉時代の整地層上面から路面及び側溝部分

を掘込む。②掘形底部に土を敷く。土には木の小片や枝などを比較的多く含む。③土の上に礫を山状に積み上げる。④側溝を形成する。側溝は新旧 2 時期に分けることができ、掘り直しが行われた可能性が高い。路面は後世に削平されており検出することはできなかつたため、どの段階に置くか詳細不明ですが、④の前後と思われます。

礎石建物や道路と関係する遺構として柵 4 ・ 5 を検出しました。柵 4 は道路 640 北側溝にあたる溝 593 の北側で検出した東西方向の柵で、柱間は 1.0 ～ 1.4 m と不等間です。宅地と道路を区画していたと考えられます。柵 5 は礎石建物の西端の延長線上で検出した南北方向の柵で、礎石建物から南側へ延び、柵 4 と直交します。宅地内を東西に区画する柵と考えられます。

3 期 井戸を伴う小規模な建物が複数展開し、宅地が細分されて利用される時期です。2 期以前は遺構がみられなかった 1 区でも遺構が確認できるようになります。小型の掘立柱建物や井戸、柵が確認できます。南北方向の柵 2 や柵 3 は宅地を区画していると考えられ、東側と西側では別の宅地として利用されています。

4 期 耕作地として利用される時期で、調査区のほぼ全面で東西南北方向の素掘り溝を検出しました。この時期以降は永らく耕作地として利用されていたようです。

3. 主な出土遺物

遺物はコンテナ 101 箱出土しましたが、遺物がまとまって出土した遺構は少数である。出土土器は鎌倉時代に属するものが大半で、13 世紀前半に位置づけられます。

特筆される遺物にガラス玉があり、13 世紀前半の整地層から出土しました。平面形は楕円形をなし、長軸が 3.1cm、短軸 2.4cm、孔径 0.8cm あります。青色を呈しますが、劣化により表面は白色化している。製作技法は巻上げ技法。蛍光エックス線分析の結果から、カリ鉛ガラスであることが分かりました。また、鉛同位体の分析から、鉛の産地は対馬の可能性が示されました。

4. 礎石建物の復元

礎石建物の性格としては①仏堂と②倉庫の 2 通りあります。それぞれの案について検討してみたいと思います。

仏堂 ①壺地業を行い強固な基礎を構築していることから、重量のある上部構造をもつ建物であること。

②文献史料から調査地周辺では仏堂を建てている事例が多いこと。

③調査地の近隣で文献史料にはあられない、発掘調査例があること。

平安京内の類例との比較

調査例 1 右京六条一坊六町…礎石建物・東西 9.5 m 以上×南北 11.5 m ・方形の掘込地業・12 世紀末～13 世紀前半

調査例 2 左京八条三坊四町…礎石建物・東西 2 間×南北 3 間以上 (5.0 m×6.6 m 以上) ・溝状の掘込地業・13 世紀

調査例 3 左京九条二坊十六町…(礎石建物) ・東西 8 間×南北 9 間 (8.3 m×9.2 m) ・方形の掘込地業 (排水あり) ・12 世紀後半～13 世紀前半

本調査例 左京九条三坊八町…礎石建物 (据付穴のみ) ・東西 5 間×南北 5 間 (12.4 m×11.0 m) ・壺地業・(湿気抜き) ・13 世紀前半

- 倉庫 ①礎石の配置から総柱建物の可能性があること。
 ②建物中央の礎石据付穴の配置がやや歪むところがあり、御堂であるならばより整然と並んでいると考えられること。

5. まとめ

平安時代には耕作地として利用されていたことが明らかとなりました。また、その利用も条坊区画に沿うものではなく、流路 848 に規制されるようなものであったことが分かります。この流路 848 は、調査地の南東に位置する左京九条三坊十町で検出した流路と一連と考えられることから、室町小路と針小路を横切って流れるように復元できます。

平安時代末から鎌倉時代になると宅地としての利用がはじまり、道路の整備も進みます。遺構の重複関係や出土遺物から 3 時期に分けることができます。①宅地利用がはじまる段階で井戸を検出しました。②礎石建物や柵・道路が整備され、宅地化が明瞭になります。③井戸が伴うような小型建物が建ち、宅地も柵で分割され小規模化します。その後は、耕作地として利用されます。

参考文献

古代学協会, 古代学研究所 1994『平安京提要』 角川書店
 小椋山一良 2015『平安京左京九条三坊十町跡・烏丸町遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2013-15 (財)京都市埋蔵文化財研究所
 清水 壘 1992「子院的邸宅と持仏堂」『平安時代仏教建築史の研究—浄土教建築を中心に—』 中央公論美術出版
 鈴木久男 2011「平安京右京六条一坊六町の仏堂とその宅地」『古代文化』第 62 巻 4 号 古代学協会
 鈴木康高・松吉祐希 2018『平安京左京九条三坊八町跡・烏丸町遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2017- 8 (公財)京都市埋蔵文化財研究所
 辻 裕司ほか 2009『平安京左京八条三坊四・五町』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2009- 7 (財)京都市埋蔵文化財研究所
 平尾政幸・山口 真・永田宗秀 2002『平安京右京六条一坊・左京六条一坊跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2002- 6 (財)京都市埋蔵文化財研究所
 松吉祐希・木下保明 2015『平安京左京九条二坊十六町・御土居跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2014- 9 (公財)京都市埋蔵文化財研究所

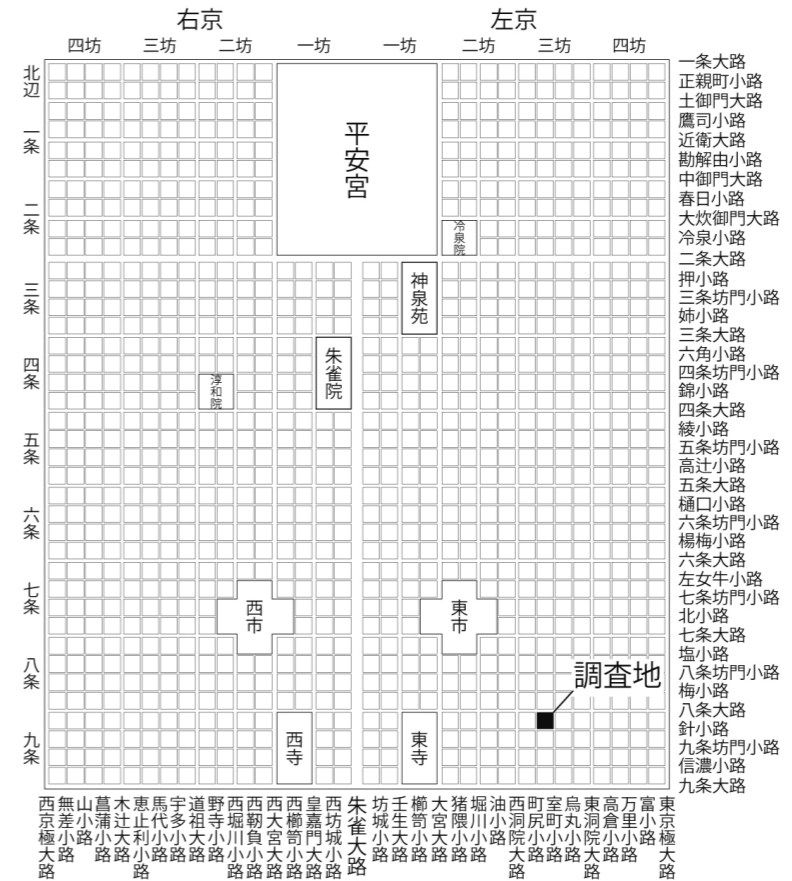


図 1 平安京と調査地

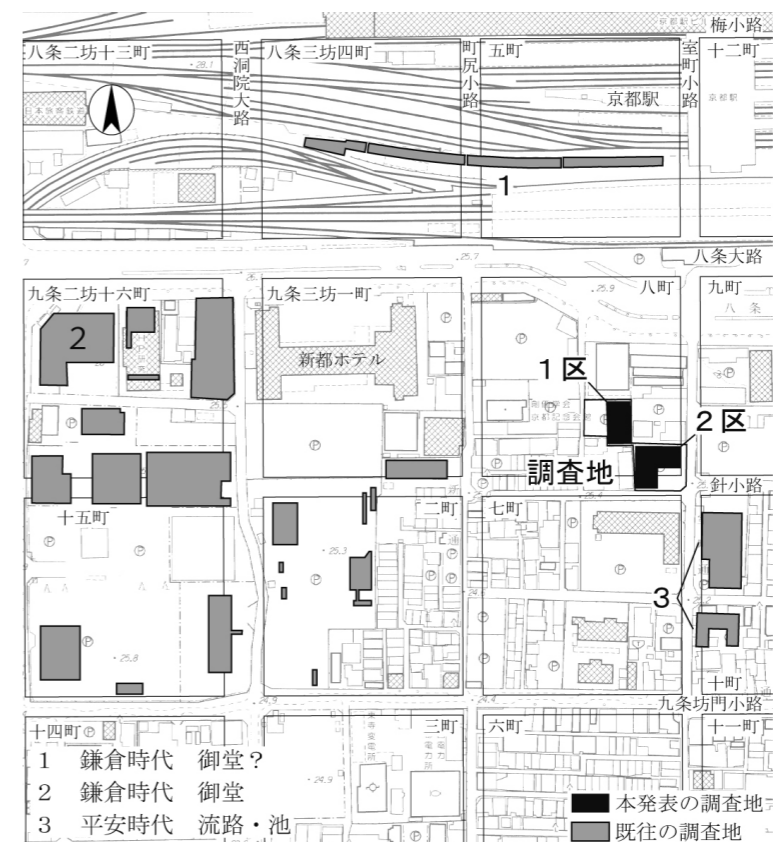


図 2 調査地位置図

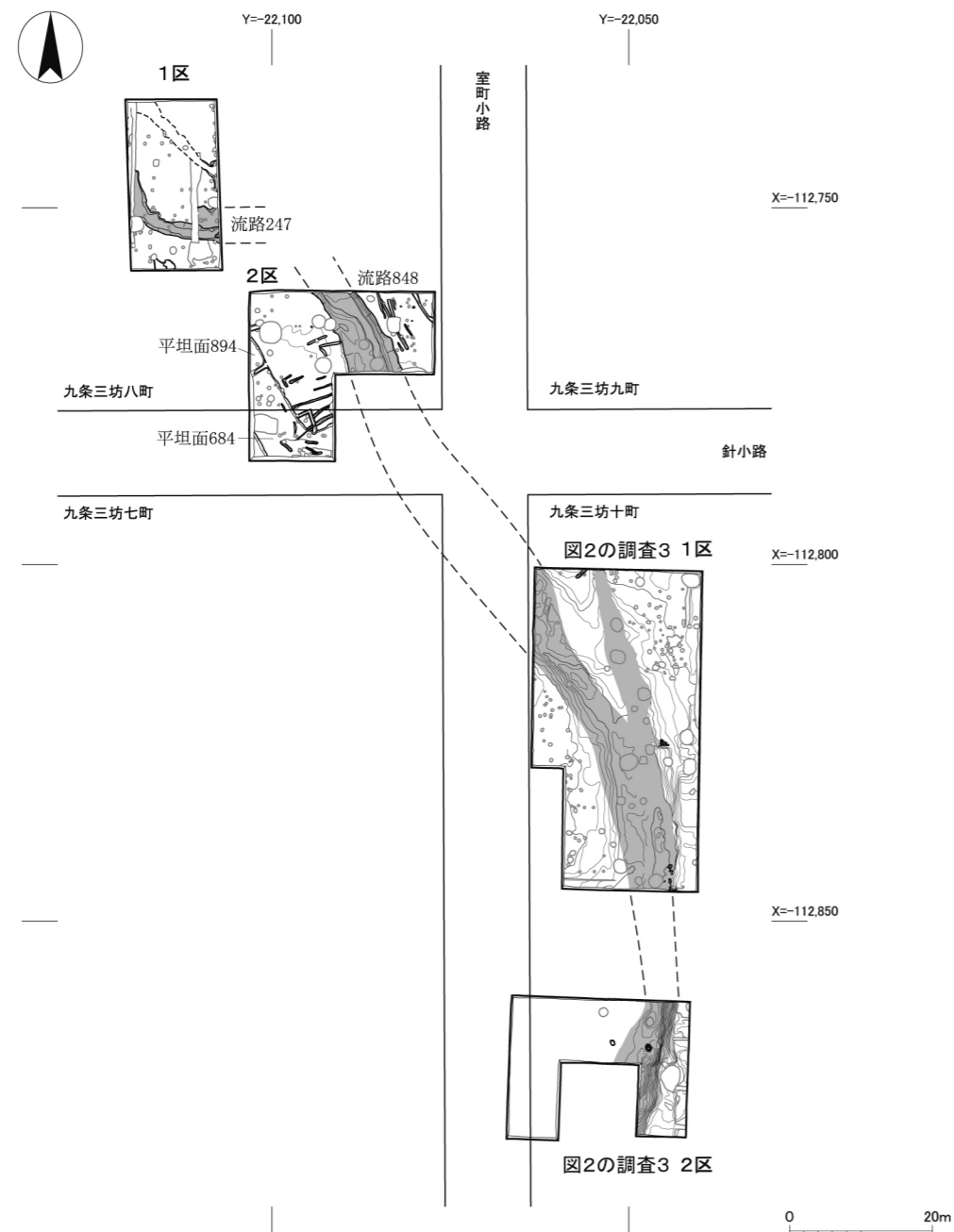


図3 平安時代遺構概要図 (1:1,000)

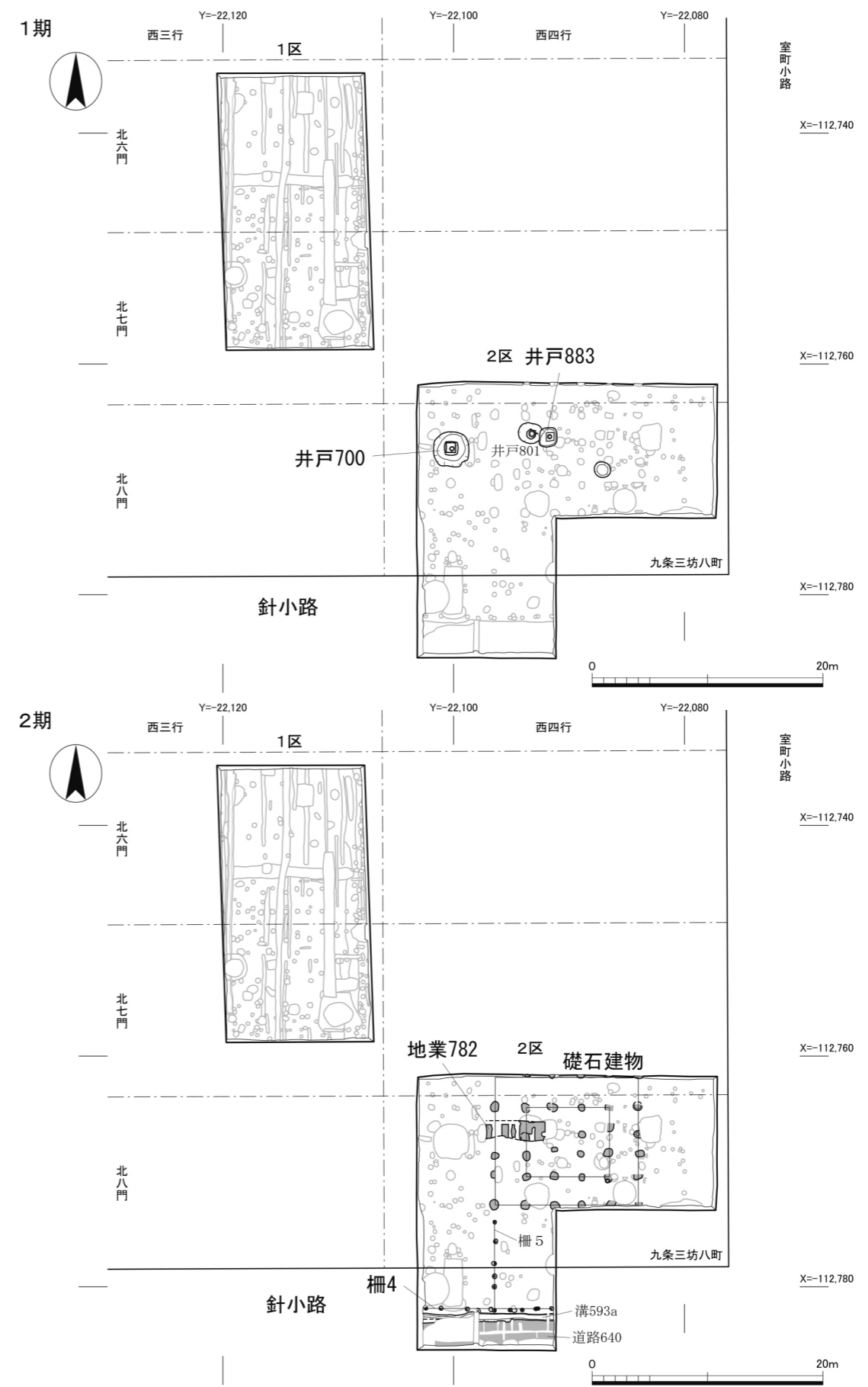


図6 鎌倉時代遺構変遷図1 (1:500)



図4 流路 848 (北西から)



図5 素掘り溝群と平坦面 (北から)

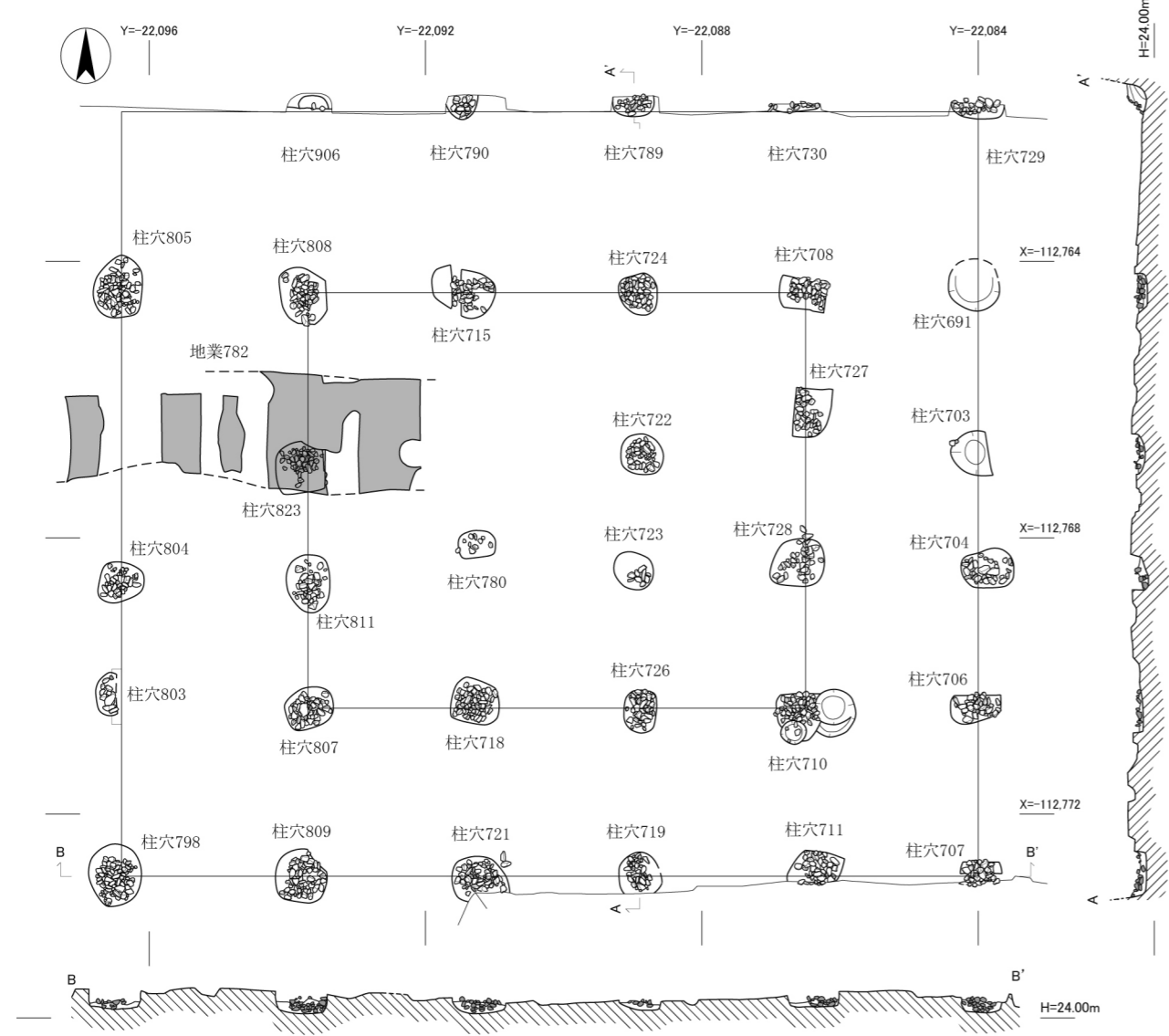


図7 礎石建物実測図 (1:100)



図8 礎石建物 (東から)

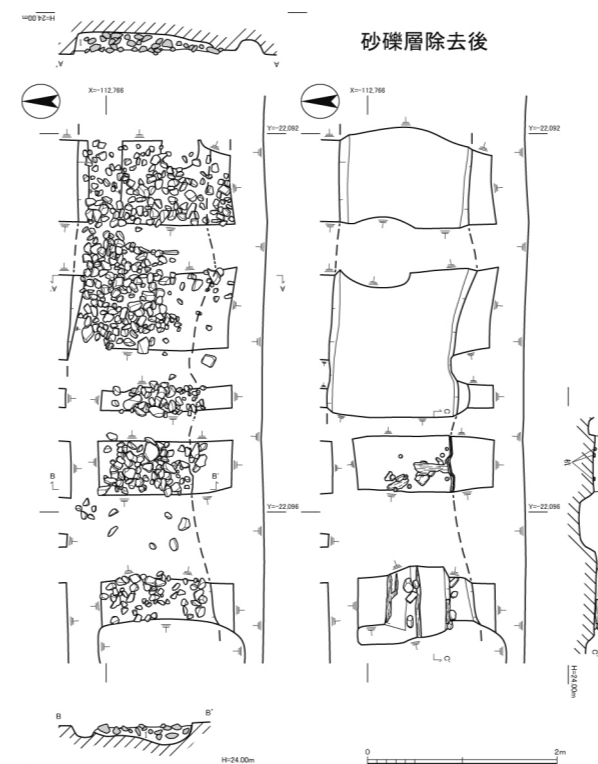


図9 地業782実測図 (1:80)

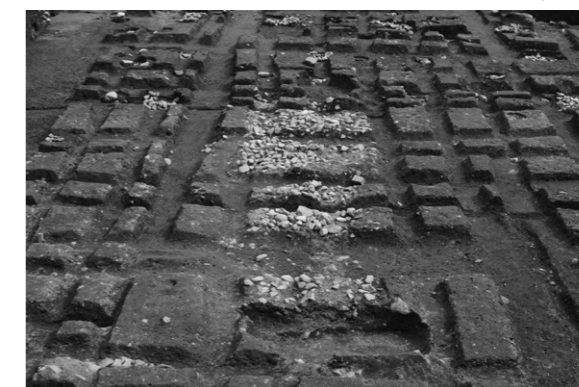


図10 地業782 (西から)



図11 地業782木の板と杭 (北西から)

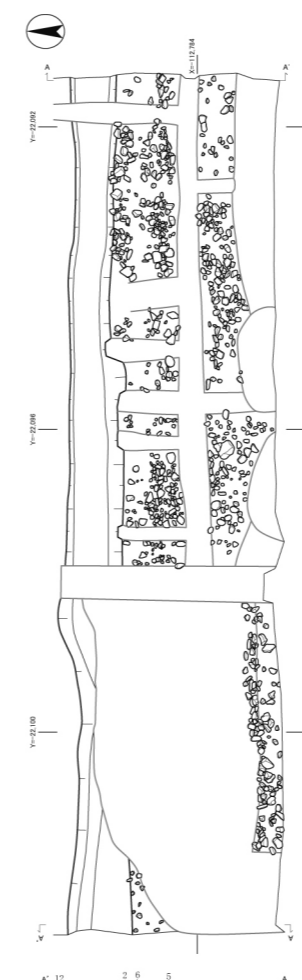


図12 道路640実測図 (1:100)



図13 道路640 (西北西から)

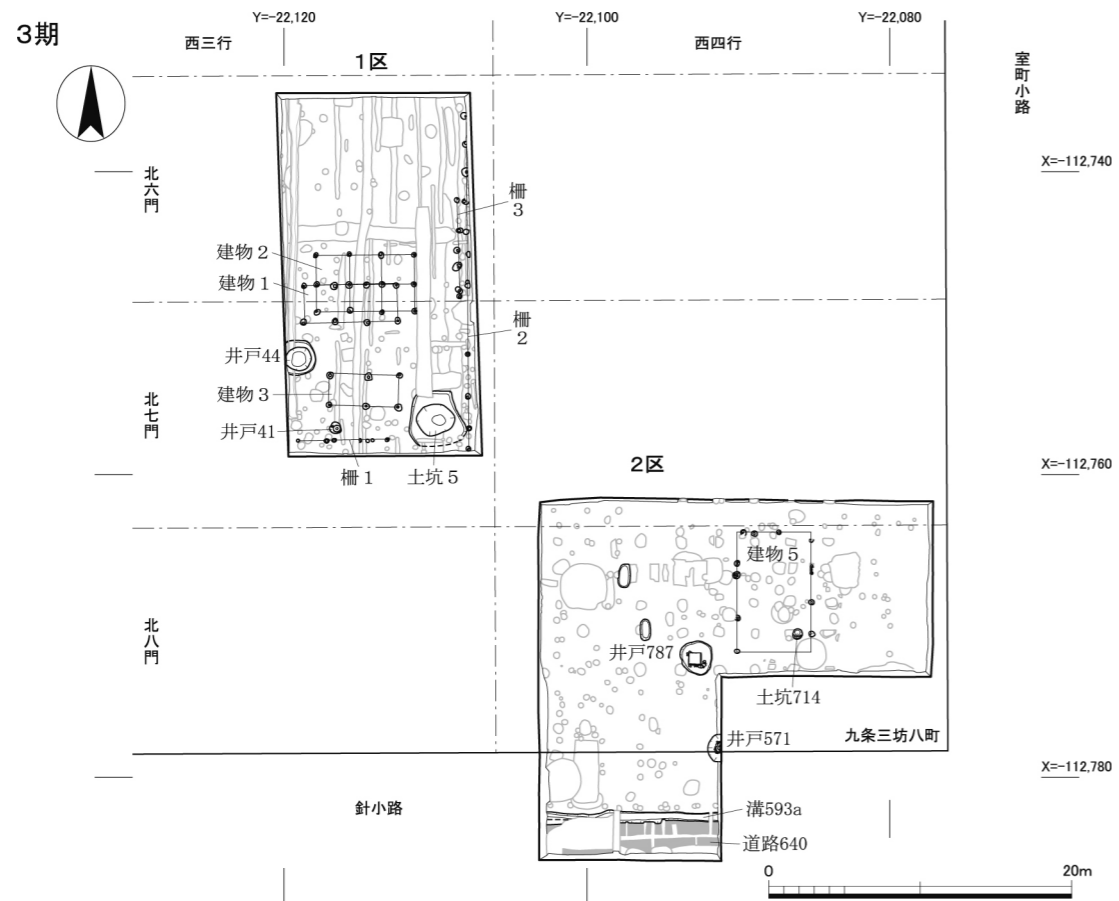


図14 鎌倉時代遺構変遷図2 (1:500)

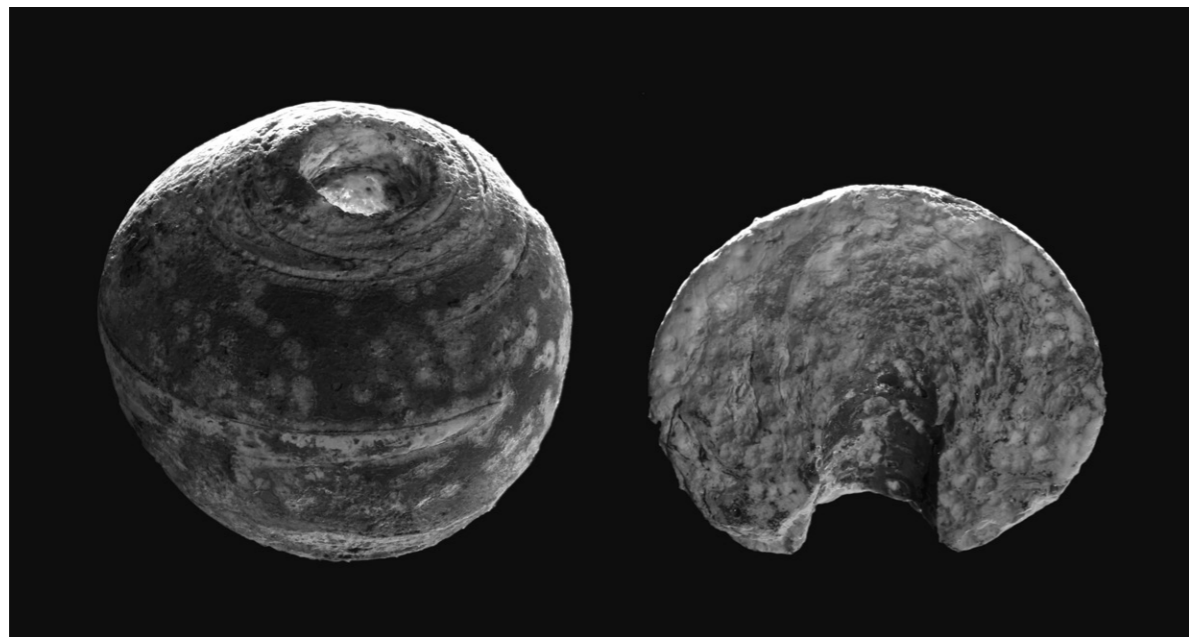


図15 ガラス玉

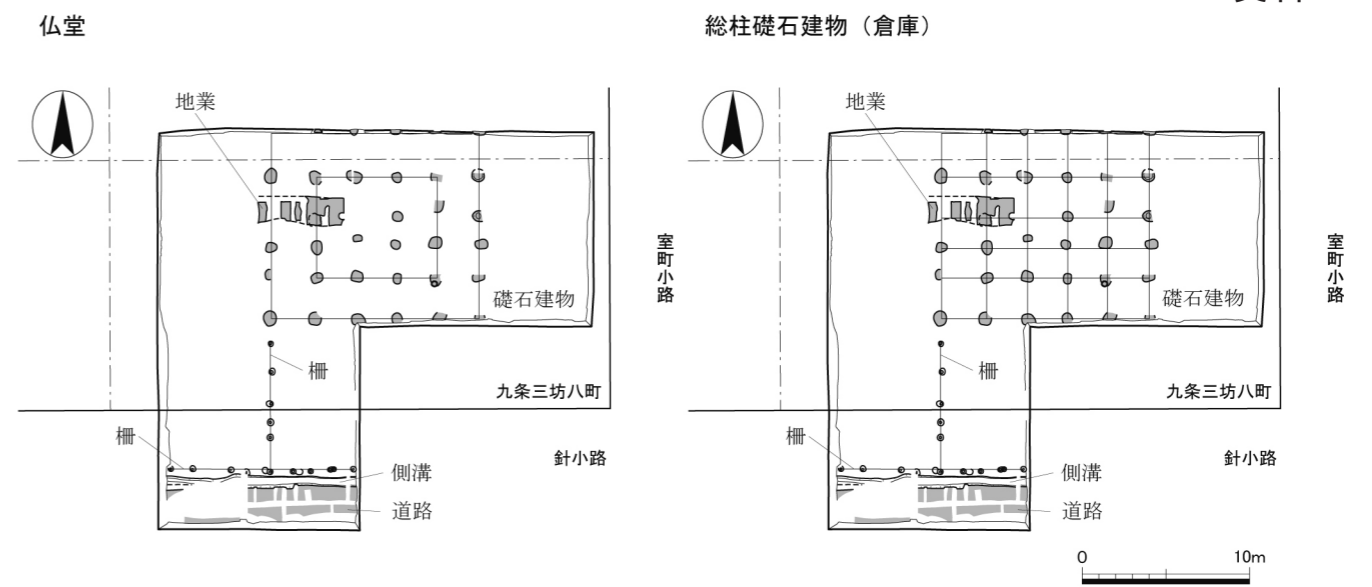
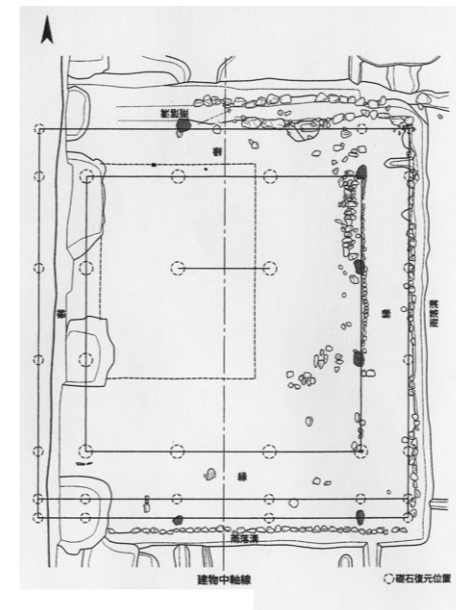
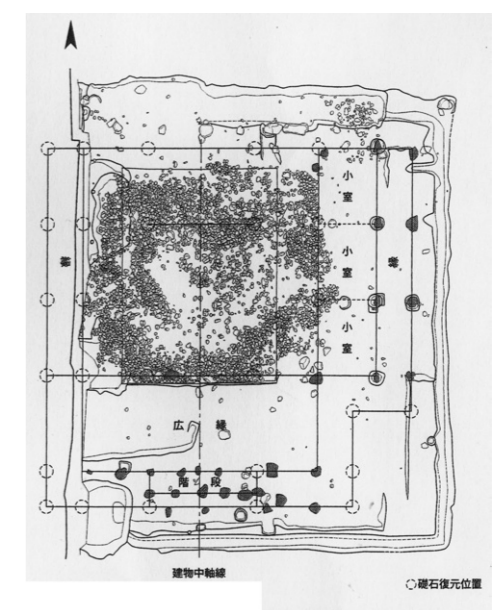


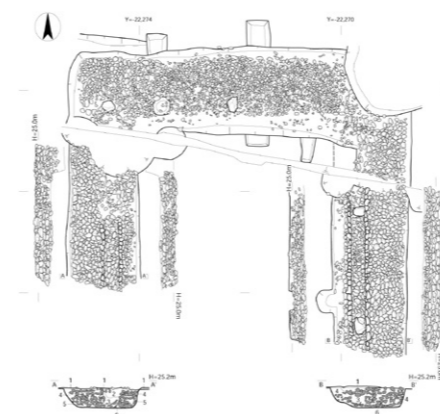
図16 礎石建物復元案模式図



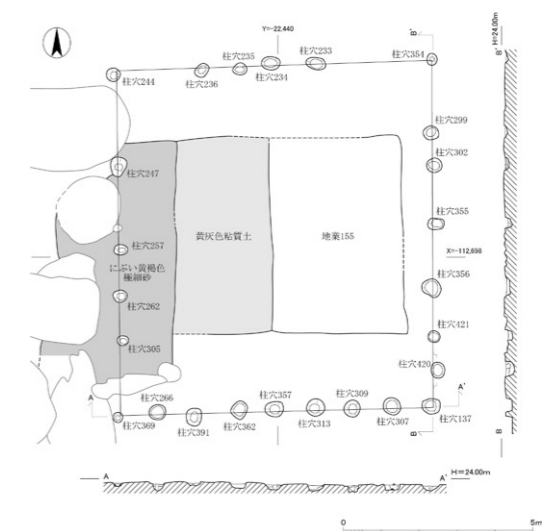
調査例1. SB79 下層建物復元図 (鈴木 2011 より)



調査例2. SB79 下層建物復元図 (鈴木 2011 より)



調査例2. 地業106 実測図 (辻ほか 2009 より)



調査例3. 建物1 実測図 (松吉ほか 2015 より)

図17 平安京内における仏堂と考えられる発掘調査例 (1:200)